midorinodam.jp

NPO法人
緑のダム
北相模

February 2015 No.390

２月号の１枚：１年の安全を祈願する

世界を襲う異常気象「迫りくる気候変動の脅威」

「民・産・官・学・世界、すべての人々の協働」なしには乗り越えられない

１月４日夜のＮＨＫ、BS1スペシャルで表題をご覧になった方も多いでしょう。昨年、世界各地で多発した高温・多雨の異常気象は、予想もしなかった地球の危機の予兆だと報じています。現象として、巨大台風、海面上昇、食糧危機です。原因はCO_2による温暖化。

2010年に起きた米国のニューヨークを襲ったハリケーンによる海水は地下鉄に流れ込み8兆円の被害を出した。温暖化による氷山の融解も大問題です。またCO_2は、海水に溶け込み、サンゴの白化やプランクトンなど海の生き物の食物連鎖の異常が見られるそうです。樹々はCO_2を固定化削減するが、これも人口増による焼畑農法や、違法伐採による森林減少が原因と報告しています。森林が雨水を受けて良い水を農地や海に流さねば、魚類・海草等の海の生物は生存できないのです。

対策は？・・、英国の2050年までにCO_2の80%削減を法律で定めた気候変動法を取り上げ、米国ではクリーンパワー計画、中国はCO_2削減対策と雇用に一石二鳥を狙う計画を立ち上げています。中国とは尖閣列島など刺々しい衝突もありますが、空気汚染対策など、日本の技術を取り入れたいと友好関係も進めています。日本では自動車や工場の排気ガス削減等の技術開発が進んでいますが、「地球の異常気象阻止」にお役にたてれば何よりです。

１７年前から取り組む当会の「森林の保全・再生」運動は微々たるものでも、地球規模の問題となれば「民・産・官・学・世界、すべての人々の協働」なしには乗り越えられないと思うのです。

石村　黄仁（本会、代表理事）

今月の定例活動

2015.02

2月 1日（第一日曜日）：
小原本陣の森/森林整備、担い手育成、技術向上。
持続的森林経営：弁当持参。参加費：４００円

2月15日（第三日曜日）：
相模湖・嵐山の森/里山交流、多様な森林活動。
主食・自分のお椀・箸・飲料水は持参。参加費：４００円

FSC
www.fsc.org
FSC® C006376
責任ある森林管理のマーク

[定例活動]相模湖嵐山の森

1月18日（第三日曜日）

新年初の活動日にふさわしくすっきりとした青空がひろがっている。今日は高井戸中から２０名、加えてフォレストノバも法政、早稲田、東農大の学生らを招いて何やら賑やかな雰囲気だ。総勢５９名。例年通り、まずは山の神様の前で二礼二拍手一礼し本年の無事を祈る。

森林整備班は数名で間伐材降ろし、木工班は仮置き場に使用する柱のほぞ穴彫り。ともに先月に引き続いての作業である。材降ろしは急斜面で行われるため、かなりの体力と慎重さが求められるが、豊川さんは女性ながら黙々と取り組んでいる。ほぞ穴彫りは実に根気の要る作業で、一人一日一穴のペースとのこと。仮置き場の完成にはまだまだ長い時間がかかりそうである。お花畑班は降雪に備えモッコウバラのアーチの補強と垣根の修復に余念がない。

フォレストノバは午前中、他大学の学生プラス生命の森宣言東京のメンバーと共に霜柱を踏みながらの森林散策。どうやら嵐山の天辺まで行ったようである。案内役は淺野君。その後は間伐体験。こちらのリーダーはノバＯＢ斎藤君である。斎藤君は林業会社に勤務しているいわばプロ。後輩たちに助言を与える姿が頼もしい。その間、高井戸中はスギを一本伐倒した。これは年初めに行う恒例行事である。

昼食時、かどや食堂からの温かい汁物をいただいた後は井伊さんによる詩吟が披露される。井伊さんは東北大震災、それに伴う福島第一原発事故により被災された方々のもとに赴き支援活動を続けている。その思いの丈を込めた声が森に響く。

午後、ノバは間伐の続き。高井戸中は４グループほどに分かれ枝打ちに取り掛かる。ムカデ梯子の立て掛けも枝打ち作業も、チームワークよくてきぱきとこなす。見事のひとことである。

この日、森林整備班が降ろした材は何と３０本にものぼったという。他の班もそれぞれの仕事にひたむきに取り組んでいた。いつもながらその姿には頭の下がる思いを禁じえない。

終礼後は新年会の会場である相模湖交流会館へ。若者からベテランから、それぞれの抱負がユーモアを交えつつ語られる。未来への期待をほのかに感じさせられるひとときであった。

内野　郁夫（本会、理事）

寡婦述懐　井伊嘉風

他国に嫁歸して幾春秋　嫁歸他国幾春秋
髪床を生業とし来客稠し　生業髪床来客稠
黒雨街を襲い住むこと許さず　黒雨襲街不許住
庭に佇み自ら聴う亡夫の優しさ　佇庭自聴亡夫優

左上：ForestNovaの間伐
左下：森林整備班の材の搬出
中上：お花畑班の作業
中下：高井戸中学地球環境部の作業より
右：井伊さんの詩吟
※井伊さんの詩吟は本会YouTubeチャンネルでご覧いただけます

[報告１]
ForestNova☆
新年のご挨拶

明けましておめでとう御座います。ForestNova☆代表の山田です。

去年は、嵐山から搬出した間伐材が活動で多く活かされた年でした。相模原市での桜まつり、環境まつりから始まり、東京農業大学の学園祭に用いるお神輿の装飾、橋本の児童館での木工教室、新川崎でのネイチャーフェスティバル、小原宿本陣祭、そして地域の方々が主体となった相模原市活性化交付金事業、「サンタクロースプロジェクト」など、嵐山の材が様々な場所で活躍してくれました。

これも、「森」と「人」が繋がった成果かな、と思います。森と人とのつながりができたからこそ、木材を提供することが出来ますし、それを使ってもらい、活かすことができます。そしてそれは、新しいつながりが出来ただけでなく、今までのつながりが深くなったからだとも言えます。ForestNova☆が発足し8年、嵐山で活動するようになってから6年。私たちの何代も前の先輩方が築いてきて下さった大切なつながり。それが、今も大事に引き継がれているのだなと感じました。

そんなForestNova☆の卒業生の方たちは最近、嵐山へ私たちと一緒に来て活動ができることが多くなりました。卒業しても活動に顔を出してくれるだけでもとても嬉しいのに、活動のことを教えてくれたり、代を越えてお話が出来ることが本当に嬉しいです。

そしてこれからは、私たち現役が後輩に引き継いでいく番が来ました。でも、先輩から後輩への引き継ぎというのは、「これが引き継ぎだ」と決めてやるのではなく、毎日の何気ない会話、毎月の活動などの全てが引き継ぎなのだと思います。先輩が後輩に引き継げるチャンス、後輩が先輩から学べるチャンスはいつでもどこにでも転がっているはずです。お互いのこと、森のことを「知り」、自分は何のために活動しているのか「意識」し、自らの頭と体を各々が使い「行動」できる。そんな団体を目指していきたいと思います。

最後に、ForestNova☆は、山主さん、緑のダムや小原地域の皆様、OB・OGの方、嵐山で一緒に活動している仲間の皆様のお陰で活動することが出来ています。本当にありがとうございます。これからも「森と人の共助共生社会」を目指して活動していきます。

今年もよろしくお願い致します。

山田　和彦（ForestNova）

[報告２]
私たちの暮らしと世界の森林で起きる違法伐採

日本は国土の約7割に森林が占め世界有数の森林国でありながら、国内需要の7割程度を海外に頼る木材輸入国であります。例えば、木造の住宅や洋室に使われるフローリング・机・机・棚・お箸やおもちゃ等、私たちの身の周りにあまり多くのものが海外から輸入された木材から作られています。日本は途上国から多くの木材が輸入しており多くのものが、そうした国で持続可能な森林経営を阻害しているのが違法伐採です。違法伐採とは「それぞれの国の法令を違反して行われる伐採を指すもの」（林野庁）で正当なコストを支払ずに生産された木材を安価に販売されることで誠実に林業を営んでいる人々に不利益をもたらしています。

日本は2006年に「グリーン購入法」を改正し、合法で持続可能な木材を対象とする措置を取り入れました。しかし、対象は木材需要の5%に過ぎない政府調達の限られ、また自主的な確認に任されていることなどから、違法伐採を抑えるには不十分だと私たちは考えています。一方欧米豪では、民間を含め違法伐採の取り扱いを禁じ企業に詳細な確認作業を義務付ける法律が施行されています。

違法伐採の問題は遠い出来事でなく、わたしたちの日々の暮らしや低迷するに日本の林業ともつながっています。国会議員や行政府に違法伐採対策の強化働きかけつつ、国内で林業に関する人々との議論を深めてきたいと考えています。

岸田　ほたる
（国際環境NGO FoE JAPAN）

[連載１]

緑のダム、リレーエッセイ

「楽しく、休まず、ボチボチな人々」

麻布大学、そしてForest Nova☆(以下、モリノバ)OBの二藤です。麻布大学とモリノバを卒業して早６年、大学を卒業後、岐阜県の森林文化アカデミーという林業の専門学校に進学し、現在は三重県の林業会社に勤務しており、企業が所有する社有林や地域の方が所有する私有林の管理を行っています。私も間伐や枝打ちなどの現場を中心に作業をしています。

モリノバも設立されて早いもので７年になりますが、７年前、私が大学３年生の時に仲間と一緒にこの団体を設立した当初はまさかこんなに続き、また現在行っているような活動を実現できるとは思ってもいませんでした。こんなことをやってみたい！というアイディアだけはみんなの中でありましたが、組織として大切にしていくべき理念や基本的は活動の方向性など組織の基盤を固めるだけで精一杯でした。なので、自分達が大学生の時に夢抱いていた夢物語を実践している現在のモリノバは凄いと思いますし、嬉しい限りです。後輩たちには頭が上がりません・・・(笑)

また、後輩の頑張りもそうですが、ここまでモリノバが続けて来られたのもフィールドや道具の提供、活動のご指導などの緑のダム北相模の皆様方のサポートがあったからこそだと思っています。私も緑のダム北相模に係わることがなかったら日本の林業というものに興味を持たなかったかもしれませんし、皆様方には本当に感謝しております。

最後に私事になりますが、２月に結婚をする予定でそれに伴い４月から秩父の飯能にある会社で働くことになりました。相模湖もすぐ行ける距離になるので、今後、モリノバや緑のダムに少しでもお力になれたらと思っております。山の管理も受けますので、お悩みの方は是非、ご相談ください！

二藤　政毅（諸戸林友（株））

[報告３]

ecocon2014を終えて

2014年も終わりに近づいた12月20日(土)～21日(日)の2日間にわたり、第12回全国大学生環境活動コンテスト(通称：ecocon2014)が行われました。渋谷区の国立オリンピック記念青少年総合センターに全国から環境活動に携わる団体が集まり、自分たちの活動を発表します。ForestNova☆も今年で5回目の参加となりました。今年は『全国の人にForestNova☆の活動を知ってもらうために、自信を持って発表し、グランプリを獲ること』と『他団体の良いところを取り入れるため、全国の団体の活動を知ること』を目標に掲げ出場しました。

初日は14人のメンバーで、発表の予選とグループワークを行いました。

ForestNova☆と同じ予選グループAには、新潟や早稲田、福岡や沖縄など、様々なところで活動している6つの団体が集まりました。ForestNova☆はその中で代表に選ばれ、本選出場が決定しました。

また、各団体の改善点を他団体の人と議論するグループワークでは、応援に駆け付けて下さった緑のダムの齋藤様にも参加して頂きました。そこではForestNova☆の間伐材を使いきれていないことが課題としてあげられ、個人の技術を向上させ、大学祭など木材を活用する場を増やすなどの改善策を考えました。

そして、この日の最後には懇親会にも参加し、予選グループの他にも沢山の人と出会うことができました。二日目の本選も、発表は無事に終えることができました。その後、先輩から後輩に引き継ぎが上手くできているかを審査されるという内容のコンテンツがありました。『団体として最も大事にしていることは？』という質問に対し、私と先輩が偶然同じ『理念』と答えました。

このことで上手く引き継がれている判断されたかはわかりませんが、私は先輩と同じ考えだということを知ることができて、とても嬉しかっ

たです。
表彰式では、環境写真コンテストで、事前に提出していた『未来に残したい／残したくない写真』が2位に選ばれました。発表では、惜しくもグランプリを逃してしまいました。しかし、今後ForestNova☆でやっていくべきことが明らかになったので、出場して後悔はありません。また、学生日本各地で行っている環境活動を一度に沢山知ることができて、大変良い勉強になりました。そしてここでの出会いを大切にし、そのつながりを何かに活かしていきたいと思います。
現役生だけでなく、事前準備にご協力いただきました皆様、また応援して下さった皆様、本当にありがとうございました。

西田　朋世（FOrestNova）

[連載２]
相模湖・若者の森づくりから

新年、明けましておめでとうございます。皆様はこの年末年始、いかがおすごしだったでしょうか。

さて、昨年の10月末日に山梨県の小菅村にて間伐体験を2日にわたり行いました。
1日目は午前中に小菅村にある多摩源流大学へ行き、そこで小菅村に生えている植物、土の状態についていろいろな説明を聞きました。午後は小菅村で間伐ボランティアをしている木こりクラブの皆さんを講師に迎えた間伐体験に参加しました。私は今まで間伐を行ったことが無かったので、「ちゃんと木が切れるのか」や「どうやって木を倒すのだろう」などの不安や疑問で頭がいっぱいでした。間伐を行う前に間伐の仕方について説明を受け、特に大切なのが木を倒す方向を決め受け口を作ることと、受け口と追い口のバランスが大事になるということを教わりました。実際、間伐をしてみるととても難しく、受け口を作るのに木を半分以上切ってしまい、追い口とのバランスが崩れてしまいました。しかし、間伐を行ったり、他の方が切っているところを見ているうちに段々と上達し、受け口と追い口のバランスを考えた間伐をすることができるようになりました。そして、この日は合計で3本切ることができました。

2日目の午前中は小菅村にある森林組合に行きました。そこは木材の加工などを行っている場所で、山梨県内で唯一という水圧皮剥ぎ機や木材を木屑にする機械の説明を聞きました。そしてそのあとに樹齢およそ100年の木材を見ました。樹齢100年の木材は、私達が活動している嵐山の森の木材と比べてとても大きく、生命の偉大さを学ぶことができました。
その後、芋ほり班、薪割り班、火起こし班に分かれてお昼ご飯の準備を行いました。その中で私は芋ほり班の方へ行き、サツマイモを掘りました。サツマイモはすごく大きいものから形が歪なものまでたくさんのサツマイモを収穫しました。そしてお昼には、先程収穫したサツマイモ内、大きめなものを10個程使って焼き芋を作ったり、鹿肉を焼いたり、自分たちでバウムクーヘンを作ったりして、今回の小菅村間伐体験を終えました。

今回の小菅村間伐体験で私は初めて間伐を行い、木を切ることの難しさ、受け口と追い口のバランスを大事にする意味などを学びました。今回ここで学んだことを、私たちが活動している森での間伐で生かしていきたいと思っています。

櫻井　友樹（ForestNova）

【事務局からお知らせ】

エスリジャパン
ArcGIS事例集VOL.11に掲載

「麻布大学と特定非営利活動法人 緑のダム北相模は、中学校や学生団体とともに相模湖周辺で森林整備を行っている。　緑のダム北相模（代表理事：石村 黄仁氏）は、2005年に国際認証機関の認証を取得した。今後の認証の更新のため、そして、森林整備状況のデータ化、植生調査結果のデータ化のためにはGISの利用が必須と考え、さらに、本活動をアピールするためには、簡単に短期間でWeb公開できるArcGIS Onlineが最適であった。

2014年6月にGIS利用開始後、すぐに定例活動の様子をストーリーマップとして公開したほか、中学生とともに間伐データや植生データを収集し認証の更新用としてデータの蓄積も始め、これもストーリーマップとして公開するなどGIS導入の成果が出始めている。」

続きは、ウェブでも公開されていますのでそちらをご覧ください。
http://www.esrij.com/industries/case-studies/69209/

会員コーナー

●会員のコーナーでは、皆さんの自由なご意見やご提案をお願いいたします。下記の専用メールアドレスか、事務局FAXまでご連絡ください。また、こちらのコーナーへの投稿や写真の提供もお待ちしております。

●通帳からですと振り込み手数料が掛かりません。
領収書はゆうちょ銀行等の発行する領収書をご利用下さい。
また、新規入会の方は、住所、電話番号を事務局にお知らせください。
振込の際は局の振込用紙に記号、番号を記載し、振込者の情報を記入して、機械操作にてお振り込みいただけると助かります。

世田谷郵便局　（記号）10000-（番号）65791651

参加にあたって：

初参加者は、9時15分までにJR相模湖駅前集合してください。服装、持ち物については、汚れても良い服装、着替え、滑らない靴　成るべく皮製手袋、万一の怪我に備えて保険証、飲料水、主食；自分の食器(お椀・お箸)

危機管理・救急対応：

危険管理・救急体制・森林ボランテイア保険の準備の他、会として可能な限りの体制を敷いていますが「怪我・事故は、自己責任」です。

NPO法人
緑のダム北相模

急がず、無理せず、楽しく、休まず、
ボチボチと・・。
そして、沢山の参加で森は、良くなる。
（台風の日は勉強会開催。１６年間、
一日も休まず“継続は力”。）

名称：特定非営利活動法人　緑のダム北相模
事務局：154-0023　東京都世田谷区若林３－３５－９
発行人：NPO緑のダム北相模　事務局 Tel&Fax　03－3411－1636
ＵＲＬ：http//www.midorinodam.jp
E-mail：info●midorinodam.jp　●を＠に変更して使用してください
corner●midorinodam.jp　会員コーナー専用アドレス

協働団体：セブン-イレブン記念財団、相模原市（市民協働推進課）、
東海大学付属望星高等学校、生命の森宣言・東京
支援団体：WWF JAPAN、イオン財団、市民社会チャレンジ基金、
神奈川県建具協同組合、JFEメカニカル、東急コミュニティ、
マルモ出版